



千代田区

青少年委員だより

千代田区青少年委員会
子ども・教育部 子ども総務課

Vol. 44

2015. 3

ホームページもご覧ください

千代田区 青少年委員会

検索

2014年度 青少年委員会活動報告

2014年

- 5月 ひがた探検隊事業リーダー講習会
東京都青少年委員会連合会定期総会
- 6月 ひがた探検隊事業(春の部 ひがた探検)
中央ブロック第1回定例会(中央区)
管外研修(メレーズ軽井沢)
- 7月 ひがた探検隊事業(夏の部 すだて漁)
- 9月 中央ブロック研修大会(港区)
- 10月 ひがた探検隊事業(秋の部 湧き水を求めて)
千代田区民体育大会手伝い
各児童館祭りのお手伝い
- 11月 中学校・中等教育学校長との懇談会
中央ブロック第2回定例会(千代田区)
ポニー乗馬会 淡路公園(ワテラス)
- 12月 管内研修・インクルーシブ教育

2015年

- 1月 成人の日のつどい(ホテルニューオータニ鶴の間西)
中央ブロック新年会(中央区)
- 2月 ひがた探検隊事業(冬の部 海苔すき)
東京都青少年委員大会

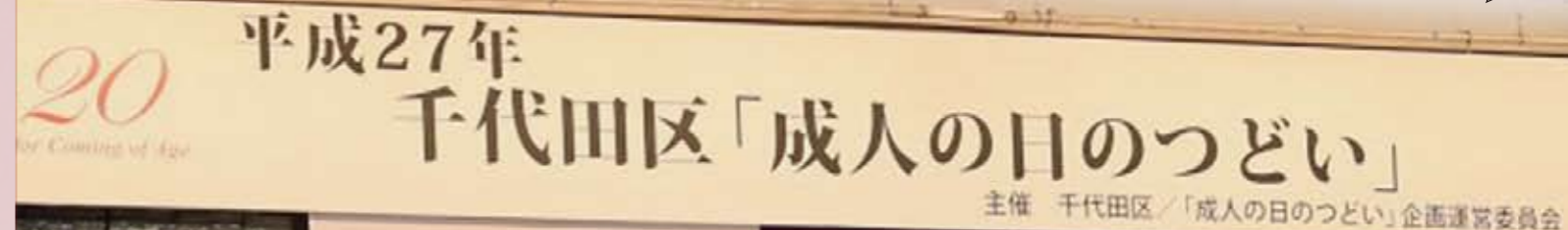
注) 上記以外に毎月1回の定例会(8月以外)計11回

編集後記

ご覧頂いた通り、青少年委員会の活動は盛りだくさんで、内容も益々充実して来ております。振り返ると、スマホやゲームの文化が主流になる中、子ども達が自然や動物と触れ合うこと、そしてさまざまな世代の人達と交流することの大切さをつくづく実感しております。我々は今後も引き続き研鑽を積み、より多くの児童の笑顔の為に地域の立場で、学校や行政と共に進んでいきたいと思っております。

最後になりますが、本委員会の活動並びに研修にあたり、ご尽力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。

(広報委員会 瀬谷達郎)



CONTENTS

| | |
|-------------------|-----|
| ひがた探検隊 | 2 |
| ポニー乗馬会 | 3 |
| 「成人の日のつどい」 | 4~5 |
| 研修会報告 | 6 |
| 懇談会・見学会報告 | 7 |
| 年間活動報告・編集後記 | 8 |



ひがた探検隊



第1回 春の部 平成26年6月1日(日) ひがた探検

東京湾にある唯一自然のまま形を残す盤洲(ばんず)ひがたに行き、大量のカニの他、エビや貝や魚などの生き物や植物を観察しました。(詳しくはMessage 2014をご覧ください)

第2回 夏の部 平成26年7月13日(日) すだて漁

海中に立てた「簀(す)」に満潮時に入って出られなくなった魚を、干潮時に捕える漁～すだて漁の体験です。タイ、ダツ、カレイなど逃げ回る魚を網で捕まえました。砂を掘ればカニが捕まり、春のひがたに続き今年のすだてはカニも大漁でした。頑張った漁の後は、東京湾の海の幸たっぷりのご飯をいただきました。ダツや海草の天ぷら、海苔の酢の物、あさりご飯、あさりのお味噌汁、あさりの酒蒸し、タイのお刺身、カレイやアカエイの煮魚と、海の上で食べる取れたての味は格別でした。

潮が満ちて来るまでの時間で砂アートに挑戦。班毎に相談したり言い合いしたりもしながら夢中で砂を掘り、砂を積み上げ、ダツが周りを囲んだダツのお城・緑の海草で彩られたカメ・体長2メートルはあろうかという巨大なカニなどの力作が完成、子どもも大人も砂アート作りに燃えました。



第3回 秋の部 平成26年10月12日(日) 湧き水を求めて

今年は木更津市馬来田にある武田川コスモロードと湧き水探検。

探検前には、山に降った雨が山肌に浸み込み、湧き水となって武田川、小櫃川となり、河口干潟から東京湾へ…と流れていく過程を学習しました。

水の循環を頭に入れて、「いっせんぼく」に出発。コスモスが咲き乱れる中、約2kmの道のりを探検しました。土手や湿地帯を歩き、途中に出会ったトンボや蛙、猪が荒らしたばかりの田んぼ等々多様な生き物との出会い。ハンノキや釣舟草など珍しい植物との出会い。千代田の子ども達は目をキラキラさせて探検を楽しんでいました。ぬかるんだ狭い道を譲りあいながら進んでいくと「いっせんぼく」に到着です。

岩の淵の砂地からポクポク湧き出る水！自然の偉大さに感動しました。

昨年度は岩の割れ目から流れ出る水を見に行きましたが、今年は地面から湧き出る水を見ました。どちらも様子は違いますが、自然の大切さは実感できたと思います。



第4回 冬の部 平成27年2月8日(日) 海苔すき

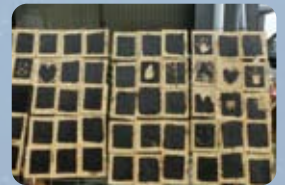
木更津の金田漁港近くで毎年子ども達も楽しみにしている海苔すき・海苔摘み体験をしました。

子ども達にも馴染みのある海苔を作るとのことで、興味津々。漁師さんのお手本は、簡単そうに見えましたが、いざ自分でやってみると意外に難しい海苔すき。木枠に均等に海苔を流し込むのに苦戦している子もいました。慣れてくると、自分の手形を抜いたオリジナル海苔を作る子もいました。

その後は、漁師さんの説明を聞きながら、海苔を採る潜り船を見学しました。

昼食は地場産の海苔でてっぼう巻き作りと生海苔のお味噌汁。自分で作った分だけ食べ放題ということもあり、「ごはん、おかわり～」と言う声があちこちで飛び交ってました。満腹になった後は、海苔摘み体験。網についた生海苔を三本の指で丁寧に摘みます。袋いっぱいにお土産として持ち帰りました。

参加した子ども達は、海苔の美味しさを堪能し、海で育った生海苔から1枚の海苔になる過程を学び、更に海苔が大好きになったようです。



ひがた探検隊は、四季を通じて自然体験をする活動です。都心では味わえない自然を見たり、体験し貴重な経験をする中で、自然の大切さを実感してほしいと願っております。



ポニー乗馬会

実施日：平成26年11月29日（土）

場 所：淡路公園（ワテラス隣接）

主 催：千代田区青少年委員会

共 催：一般社団法人淡路エリアマネジメント・安田不動産株式会社

協 力：公益財団法人 ハーモニィセンター

今年も、子ども達の心を豊かにするための自然体験事業として、障がいのある子どもと一緒に楽しめるポニー乗馬会を実施しました。当日はあいにくのお天気で、雨の為一時中断されたりもしましたが、何とか無事再開しポニーや馬車に乗り、うさぎやモルモット・羊・ヤギ達とふれあったり、Gボールで遊んだりしました。そして、最後の餌やりには行列が出来るほどでした。

じっと雨が止むのを待っていて良かったと一同ホッとしました。参加した子ども達も本当に楽しそうにしていました。また、隣接のワテラスレジデンスの学生ボランティアの協力もあり、地域との交流もでき充実した内容の乗馬会となりました。



キョットだけドキドキ



馬車はいつでも大人気！



動物のからだってあったか〜い





講演 山根 一眞氏

平成27年 千代田区 成人の日のつどい



千代田区長
石川 雅己 氏

第1部 式典

開 会

主催者挨拶(千代田区長)
来賓挨拶(千代田区議会議長)
(千代田区選挙管理委員会委員長)

講 演(山根 一眞氏)
フルート演奏(新村理々愛さん)
二十歳の宣言(新成人代表)

第2部 祝賀パーティ

新成人の企画運営委員紹介
テーブル対抗クイズ&ビンゴ大会
乾杯
フリータイム
閉会



フルート演奏
新成人 新村理々愛さん



二十歳の宣言
新成人代表 満處祐貴君



新成人企画運営委員



長島 里有
佐々木 亜実
関川 智也
下出 萌花
鈴木 哲
満處 祐貴



会議後の企画運営委員



古 典 柄 の 着 物



クイズの合間にインタビュー



新成人の
出席者数
353名
(区内：218名)
(区外：135名)

千代田区青少年委員会



ビンゴ大会
谷会長より景品の授与



模擬投票



管内研修報告



「共生（インクルーシブ）の必要性」 ～障がい児達の未来への生きる力を育むために～

平成26年12月7日（日）14時～16時 千代田区役所4階401会議室
かいづ あつこ
講師：東洋大学社会学部非常勤講師 海津敦子先生

インクルーシブって？ リフレーミングとは？

海津先生はアメリカで生まれた三女に障がいがあり、初めて障がいのある子と向き合われることになりました。それまでは、自分に障がいがある子が生まれてくるとは考えてもいなかったのに、①我が子を理解できないという壁 ②家族の考え方・とらえ方の違いの壁 ③社会との壁 ④自分自身の障がいに対する価値観や常識との壁 の大きな4つの壁に直面されました。

中でも障がいのある子どもに多い、お子さんの激しい偏食に悩んでいる時、カウンセラーから「偏食は好き嫌いが選択できている」のだとリフレーミングすることを教わり、随分救われたそうです。

“リフレーミング”とは物事の見方・考え方を変えてみるということで、気持ちが前向きになれるというお話は子育てをする上で親としてとても参考になりました。

障がい児への取り組みで、文京区のある小中学校では朝、通常学級に行ってから支援学級に移動して授業を受け、給食時には戻ってみんなと一緒に食べます。その際支援学級に行く児童をクラスの仲間は「いってらっしゃい」と送り出してくれるそうです。とても自然で明るい交流が生まれているのですね。

小さい時から障がいの有無に関わらず共に過ごすことは、障がいを理解し「できないこと」があったときどのような手立てをとればいいのか知ることであり、一緒にいて当たり前のこととしてとらえる感性をはぐくんでいけます。そもそも差別や偏見は「知らない」ということからの「恐れ」から生まれるものです。

障がいの有無で線引きをせずに過ごしていく「知る」ことで、自分と違う人を理解し認める。まさに多様性を理解し共に生きていく感性を持った人へと育てていくことにつながります。

障がいのある子もいない子も共に育ちあう学校や地域となり、共生“インクルーシブ”していける社会になって欲しいと強く思います。障がいがあってもなくても、親も子も人生が楽しめるように、心の壁を取り払う活動をしていきたいとの思いを強くした講演会でした。

リフレーミングの例

偏食→好き嫌いが選択できる
人に流される→協調性がある
忘れっぽい→切り替えが早い
面倒くさがり→無駄なことをしない

障がいのあるお子さんや親御さんに壁はありませんか。でもそれは、障がいのことを「知らないから」だけかもしれません。海津先生の本は障がいがある子の親の気持ちが切実に伝わってきます。幸せな人生とは何なのかを考えさせられる本です。

『発達に遅れのある子の親になる』（日本評論社）2002
『発達に遅れのある子の親になる②』（日本評論社）2007



海津敦子先生著書

青少年委員会からの推薦本

『自閉症の僕が跳びはねる理由』（エスコアール）2007
『続・自閉症の僕が跳びはねる理由』（エスコアール）2010

今まで、無口で余り多くを語ることの無い自閉症の子どもの心の中は誰も知ることが出来ませんでした。ところがお母様のたゆまぬ努力により書く事を手に入れた東田直樹氏が、なぜ大声が出てしまうのか、なぜじっとしてられないのか等、自閉症の子ども達を代表して色々な思いを綴ってくれています。（中学生時代・高校生時代）北欧やアメリカなど世界の自閉症児の親たちにも救いの書となっています。



東田直樹氏著書

区立中学校・中等教育学校長との懇談会

日時：平成26年11月11日（火）18：30～
会場：神田一橋中学校 1階会議室

平成26年8月に完成した神田一橋中学校の新校舎内部を見学させて頂いた後、各校校長先生との懇談会を行いました。初めに各校長先生よりご挨拶をいただき、その後テーマに添って質疑応答を行いました。



テーマ

1. いじめ対策について
2. 特別支援学級と普通学級の交流について
3. 中学校のスクールライフサポーターについて
4. その他

各校の特色を活かしながら学校運営されている様子を詳しく伺うことができ、校長先生方の熱い思いに触れながら活発な意見交換が出来た有意義な懇談会になりました。



麴町中学校 工藤勇一校長先生



神田一橋中学校 太田耕司校長先生



九段中等教育学校 坂 光司校長先生

神田一橋中学校が新しくなりました！

校長先生方との懇談会前に、全面改装されて新しくなった校舎を見学させていただきました。一階から屋上まで吹抜けの明り取りの窓を取り入れ、床もフローリングにすることで全体に明るくなりました。体育館の屋根にソーラーパネルを設置し、校内でのエコへの取り組みが廊下のパネルで表示されています。また、各教室には電子黒板と一人一台タブレットが設置され、約40畳の和文庫で伝統文化の学習をするなど、学習面でも充実をしていくとのことでした。



明るくなった廊下



各階のフリースペース



廊下にあるパネルには学校紹介やエコへの取り組みが表示されています。



屋上



電子黒板



黒板下にタブレットが収納されて、充電しています。



和文庫



90名規模の多目的スペース



剣道、ダンス、柔道ができる格技室